

接待伴う飲食店やホテル 3組合 従業員ら職域接種開始



新型コロナウイルスワクチンの接種を受けるホテル
従業員＝羽島郡笠松町田代、松波総合病院

「自信持って仕事できる」

で、県全体で安心感をPR
できる」と強調した。

「接種を待ちわびていた」と話すのは、県社交飲食業生活衛生同業組合の森田淳子理事長。岐阜市など都市部では4月以降、飲食店の

時短要請が長引き、歓楽街の夜の店は多くが開店休業状態にあり、「従業員の生活を支えられない」などの悲痛な声も届くという。「接待を伴う飲食店の『危ない』というイメージを変え、緊張感は維持しながら、以前の活気をいち早く取り戻せたら」と願った。

初日に接種を受けたホテル従業員の中村裕美さん(40)＝大垣市＝は「今後も感染対策を講じることに変わりはないが、自信を持って仕事に従事できる」と話した。
(武藤直子)

接待を伴う県内の飲食店やホテルなどの経営者や従業員、その家族を対象とした新型コロナウイルスワクチンの職域接種が、羽島郡笠松町田代の松波総合病院で始まった。12日までの5日間に計千人に接種する。

職域接種は県旅館ホテル生活衛生同業組合、県料理生活衛生同業組合、県社交飲食業生活衛生同業組合が申請し、各組合に加盟する事業所を対象に実施。初日は228人がモデルナ製ワクチンの接種を受けた。2回目の接種は10月に行う。

県旅館ホテル生活衛生同業組合の山岡利安理事長は「従業員が接種済みとアナウンスできれば、お客さまに安心してもらえる。ほっとしている従業員は非常に多いと思う」と話し、県料理生活衛生同業組合の平井良樹理事長は「組合が協力し接種を後押しすること